

## 「戌の満水」講演会を聞いて

令和2年10月11日、佐久穂町公民館主催の講座に参加しました。前長野県立歴史館(千曲市)学芸部長の青木隆幸先生が講師を勤め、大勢の人が会場に訪れました。

寛保2年(1742)千曲川流域で約3,000(別の資料では約2,800)人が犠牲になった大洪水「戌の満水」、千曲川流域の各地に多くの災害の痕跡が残されております。

# 東信

佐久穂町で開いた講演会で災害について語る青木さん11日

千曲川の氾濫の歴史を学んだ佐久市 臼田文化センターの講座=12日

## 水害の歴史 地域で継承

### 佐久穂と佐久 文献や絵図使い講演

台風19号災害から1年を迎えたのに合わせ、11日に佐久穂町生涯学習館「花の郷・皮来館」、12日に佐久市臼田文化センターで千曲川氾濫の歴史を学ぶ講演会と講座がそれぞれ開かれた。地元に残る文献や古い絵図などから氾濫の歴史や被害をひもとくとき、水害への理解を深めた。

### 急な豪雨警戒呼び掛け

茂来館は1742(寛保2)年に千曲川流域で約3千人が犠牲になったとされる大洪水「戌の満水」などを学ぶ講演会を開催。県立歴史館(千曲市)の前学芸部長、青木隆幸さん(62)が講師を務め、200人余りが訪れた。

した。

臼田文化センターでは「臼田古文書を読む会」の大井昌美さん(68)、佐久市文化財保護委員の鷺見和人さん(79)、同センターの上原美次さん(66)が発表者を務め、25人が聴講。大井さんは古い絵図を基に市内太田部地区の千曲川の変遷を解説した。江戸時代初期には南北に流れていた千曲川が、後期には度重なる水害で大きく東に湾曲するようになった「などとし」「短い距離で蛇行を繰り返していることがこの地域の千曲川の問題」と指摘した。

青木さんは、戌の満水と昨年の台風19号は「台風の進路、雨の降り方が異なる」と話した。戌の満水が佐久地域の北と南に雨を降らせたのに対し、台風19号の雨は東に集中し佐久穂町大日向地区の被害が大きかったとした。普段は雨量が少ない佐久地域は豪雨に慣れておらず、一度の集中豪雨で大きな被害が出かねない」と警戒を呼び掛け、「地域の災害の歴史を地域自ら継承してほしい」と強調した。

佐久穂町畑の三島ちづ代さん(69)は両方に参加。「水害は繰り返される。特別なことと思わずに備えたい」と話していた。

千曲川氾濫1年

過去に学び 今は備えて 将来に生かす

# 千曲川流域の被災地



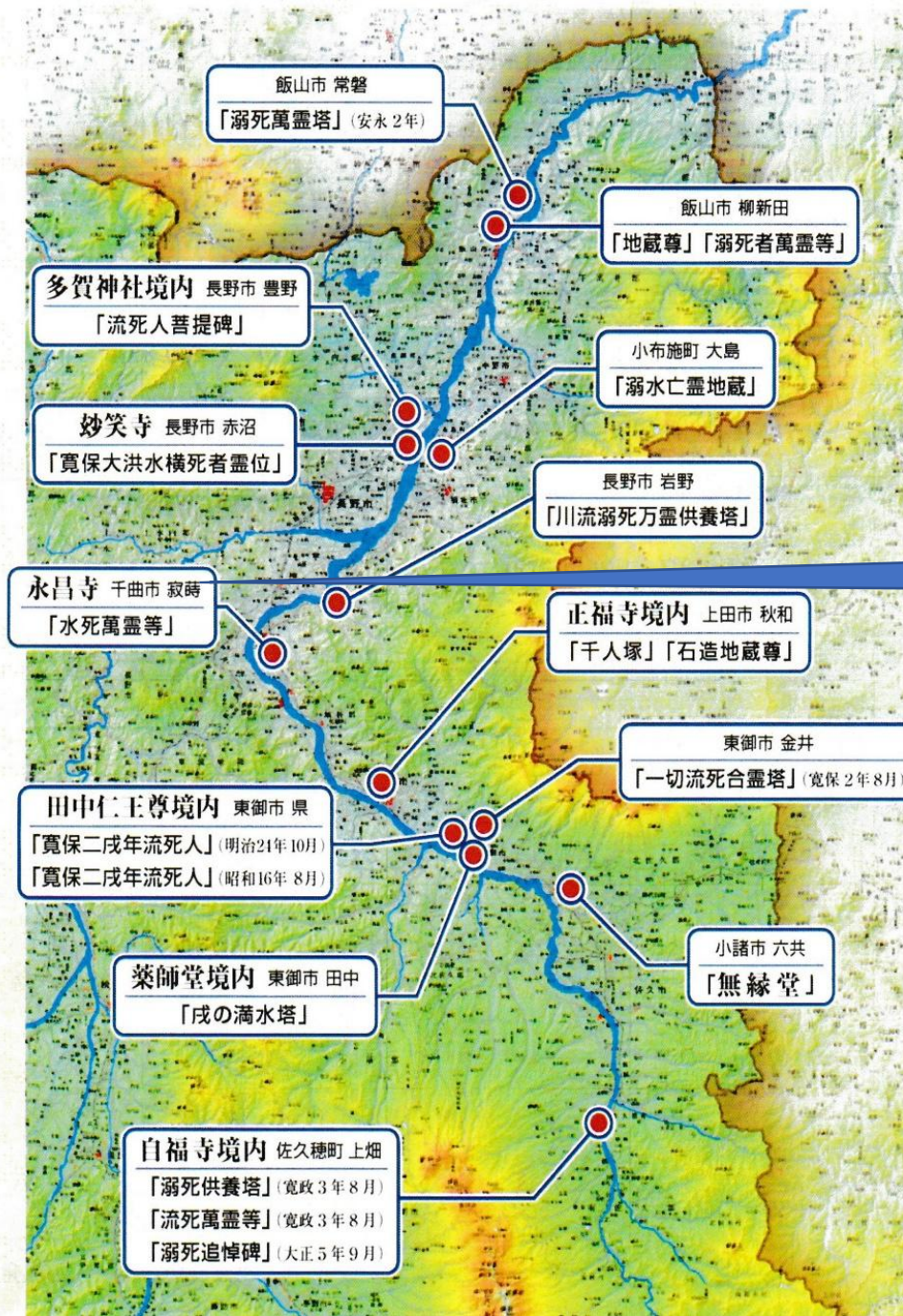
また流域各地には、供養のための石碑・慰霊碑なども残されております。



「水死萬霊等」  
千曲市寂蒔 1225  
永昌寺

# 流死者の供養

～おもな石碑、慰霊碑などの分布～

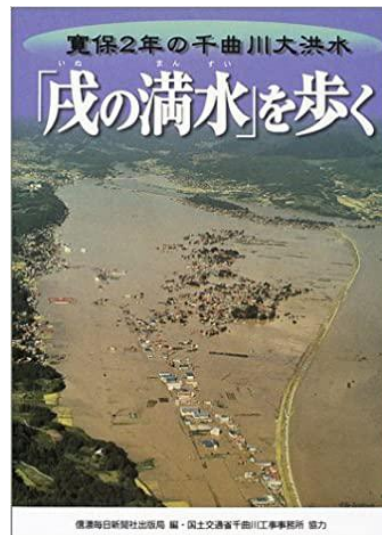


永昌寺

～上記 青木先生よりの資料～



小布施町にある水位標、最上部が戌の満水時



県立長野図書館蔵